

イ 論理的文章の変遷

(7) 論理的文章（一部随筆も含む）を用いた出題傾向の変遷 <丸数字は記述式問題>

年度	基礎力をみる問題	適語補充（接・副）	空欄補充（その他）	適語句抜き出し	指示語の内容	傍線部の意味	理由の説明	その他の内容把握	文脈・段落構成	段落分け	脱文挿入箇所	文脈間違いさがし	文章並べ替え	主旨・主題	内容合致	表現の効果	比喩	配点	備考
昭和40年度			3			1	1						1					20	
41年度	9	3										1		2				45	
42年度		5		①	2					③	1	1		①				34	
43年度			2	①				①	1	1				1	1			32	解答欄が縦書きから横書きに変わる。
44年度		2		①	1			1						1	1	1		29	
45年度								2	①	2				①		1	④	28	
46年度	12																	24	
47年度	20																	40	
48年度				②		1	3		3	①								30	(一) はすべて基礎力なので、(二) の随筆で集計してある。
49年度			1	①		3		3	1					1				30	(一) はすべて基礎力なので、(二) の随筆で集計してある。
50年度	13	1							2									40	(二) は小説なので、(一) で集計。ほぼ全部基礎力問題。
51年度	14	1							1									40	〃
52年度	15	1	4															40	〃
53年度			3	④	①			4										30	この年だけ基礎力は小説で問われている。
54年度	14	2		①														40	(二) は小説なので、(一) で集計。ほぼ全部基礎力問題。
55年度	15	2							1									40	(一) はほぼ全部基礎力。
56年度	12	2	1					1	1									40	(一) の基礎力問題に内容読解問題が混じり始める。
57年度	13	1	1											1				40	
58年度	10	1	1			3										1		40	解答欄が横書きから縦書きに戻る。
59年度	10	1				1		2										40	
60年度	11	1	1			2								1				40	
61年度	9		1	①		1		1	1					1				40	内容読解問題の比率がややアップする。
62年度	10				1	1	1				3							40	
63年度	2	3		①		1	1							1		1		30	基礎力問題が独立し、(一) はほぼ全部内容読解問題になる。
平成元年度		3		①		5												30	
2年度		3		③		2					1			1				30	
3年度		2	1	①	1	1					1			1				30	
4年度	1	3		①	①						1			1				30	
5年度		3	1	①	2			1						1				30	
6年度	2	2	1	①			1		1					1				30	
7年度		2	1	①	1	1	1											30	
8年度			1	①	2	1	1								1			30	
9年度		2	1	①				1	1					1				30	
10年度			1	①	1	1		1							1			30	
11年度		2			①	2	1	1							1			30	
12年度	1	1	1		1	2	1											30	
13年度		2						3							1		①	30	
14年度		2	1			2	1	1							1			30	
15年度		2	1	①		2				1								30	
16年度		2	1					2	1					1				30	
17年度		2				1	1	2						1				30	
18年度		2		①			1	2							1			30	
19年度		1	1			1	1								1		①	25	基礎力問題の配点がアップし、大問構成・書式スタイル変わる。

(イ) 論理的文章の分析資料による新入生学力の問題点

昭和40年	一	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 生徒は、部分の精読と合わせて全体の論旨の流れをつかみながら読むことが苦手である。 文章の記述を丹念にたどらず、自分の既成概念に沿って読み進め、誤る傾向がみられる。
昭和41年	一	問二	<ul style="list-style-type: none"> 指示するものが分からないために、文脈全体がつかめず、設問の語のすぐ後に続く語を指摘している誤答が多い。
昭和43年	二	問一 問八	<ul style="list-style-type: none"> 文章展開の論理は、時間の経過とは別のものであることを理解させる必要がある。 知らず知らずのうちに倫理的解釈をしてしまうのではないか。
昭和45年	二	問一 問五	<ul style="list-style-type: none"> 論説文に触れる機会を多くして、筆者の主張は何かを読み取る力を付けることである。 文章の流れの中で筆者の主張を把握できていない。
昭和48年	二	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 随想や評論では、観念語や抽象語の理解が問題文の理解を妨げることが多い。…観念語や抽象語について、入学初期の段階で何らかの指導をすることが必要である。また、文脈をたどる訓練も必要である。
昭和49年	二	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 勝手な読み、常識に引かれた読みを戒め、文章の展開・文脈の関係を丹念に把握したい。 作品中の独自の修辞や発想を読み取るには、登場人物の視点に寄り添って心情を感じ取ることが手掛かりとなろう。
昭和53年	三	問一 問五	<ul style="list-style-type: none"> 段落ごとの論旨の展開をよく吟味せず、設問文のみの順序で考えたためか。 全体の論旨が正しくつかめていないのであろう。
昭和58年	一	問五	<ul style="list-style-type: none"> すぐ直前だけを見てしまう傾向がある。
昭和60年	一	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な言葉の意味と用法の指導がおろそかにされている気がする。「言葉」を大切にする姿勢を養いたい。文脈を丁寧にたどって正確に読むように、日ごろから指導したい。
昭和61年	一	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 評論は、常識・通念を超えるところに生徒のつまずきの原因があり、そこに読解のカギ、また評論のうがった面白さもある。
平成元年	一	問二 問五 問六	<ul style="list-style-type: none"> 文脈を離れて…通念で読んでしまっている。 本文の主旨を離れた理解をする者もいる。「勝手読み」を避け、文脈に即した読みを心掛けたい。 本文末尾を要旨だと早合点する者が多い。特に上位群にその傾向がみられる。 論理を追うのではなく、先入観で読もうとしている。
平成3年	一	問六 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 文脈に沿って考えず、目先の言葉で判断してしまうようだ。 論説文の場合は文章の構造がはっきりしているから、丁寧に文脈をたどれば正確に文章を読み取ることができる。そうした習慣を身に付けさせたい。
平成4年	一	問三 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 勝手な思い込みを避けて本文を丹念に追うべきである。 部分の読みと全体を意識しながらの読みとを並行して進める態度を身に付けさせたい。
平成5年	一	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 空欄補充にしても、指示内容の理解にしても、指定された字数という条件だけで適当に選んだり、語感だけで内容をよく考えずに選んでしまったりする者がかなりいる。高校入学後、早期に文章の読み取り方を指導し、文章を丹念に読む習慣を身に付けさせたい。
平成9年	一	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本文の主旨と主旨を支える材料（具体例など）の構成の把握が今一步で、…例の部分が文章の中でどのような働きをしているかを正確に読み取ることができない。 思い込みや、部分的な読みにとどまることによって、本文の主旨を正確に取り得ない傾向にある。
平成18年	一	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 文章の全体像に沿った目配りのある読解ができず、傍線箇所の前後の表現、語句の一般的意味から短絡的に解答を求める生徒が多い。

(ウ) 「学習指導要領」における論理的文章に関する記述の特徴

昭和35	現代国語	内容 読むこと	(1) ウ エ オ カ 文章を読んで、主題や要旨をつかみ、また、人生や社会の問題について考えを深めること。 意図や発想と表現の関連に注意しながら読むこと。 さまざまな文体にふれ、それぞれの表現の特色を理解し鑑賞すること。 文章の論理的な構成を理解し、論拠を明らかにしながら、その論旨をつかむこと。
昭和45	現代国語	内容 読むこと	(1) ア イ ウ エ 主題や要旨を的確にとらえ、それについて自分の考えを深めること。 文脈を追って論理の展開を考え、要点をつかむこと。 文章の構成を理解し、主要な論点と従属的な論点との関係を考えて読むこと。 主題や論旨を生かすために材料がいかに効果的に用いられているかについて考えること。
昭和54	国語ⅠⅡ	内理 容解	ア イ オ カ 話や文章の主題や要旨を叙述に即して的確にとらえること。 文章の構成や展開に注意して、書き手の考えの進め方や強調点をとらえること。 文章を読んでものの見方、感じ方、考え方を広くし、人間、社会、自然などについて考えを深めること。 文章の内容や形態に応じた表現上の特色、文体の特徴などに注意して読むこと。
	現代文	内容	ア ウ エ 論理的文章について、主要な論点と従属的な論点との関係を考え、論理の展開や要旨を的確にとらえること。 文章や作品の読解、鑑賞を通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。 文体、修辞などと内容との関係を考え、表現上の特色をとらえること。
平成元	国語ⅠⅡ	内理 容解	ア イ オ カ 話や文章の主題や要旨を叙述に即して的確にとらえること。 話や文章の構成や展開に注意して、話し手や書き手の考えの進め方や強調点をとらえること。 話を聞いたり文章を読んだりしてもの見方、感じ方、考え方を広くし、人間、社会、自然などについて考えを深めること。 文章の内容や形態に応じた表現上の特色、文体の特徴などに注意して読むこと。
		内容の 取扱い	(3) ウ エ 文章の読解、鑑賞を深めるため、音読や朗読などを取り入れること。 文章の読解、鑑賞に当たっても話したり書いたりする機会をできるだけ設け、表現力、理解力の向上に役立つようにすること。 (5) 教材について イ 思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨くのに役立つこと。 ウ 公正かつ適切に判断する能力や創造的精神を養うのに役立つこと。 エ 科学的、論理的な見方や考え方を養うのに役立つこと。 オ 生活や人生について考えを深め、人間性を豊かにし、たくましく生きる意志を培うのに役立つこと。 カ 人間、社会、自然などに広く目を向け、考えを深めるのに役立つこと。 キ 我が国の文化と伝統に対する関心と理解を深め、それらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。 ク 広い視野から国際理解を深め、日本人としての自覚をもち、国際協調の精神を高めるのに役立つこと。
	現代文	内容	ア ウ エ 論理的文章について、主要な論点と従属的な論点との関係を考え、論理の展開や要旨を的確にとらえること。 目的や内容に応じた様々な読み方を通して、文章の読解、鑑賞を深め、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。 文体、修辞などと内容との関係を考え、表現上の特色をとらえること。
平成11	国語総合	内容 読むこと	ア イ エ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約したりすること。 文章を読んで、構成を確かめたり表現の特色をとらえたりすること。 様々な文章を読んで、もの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりすること。
		内容の 取扱い	(4) イ エ 文章を読み深めるため、音読や朗読などを取り入れること。 指導に当たっては、例えば次のような言語活動を通して行うようにすること。 (ア) 文章に表れたもの見方や考え方などを読み取り、それらについて話し合うこと。 (イ) 考えを広げるため、様々な古典や現代の文章を読み比べること。 (6) 教材について (ウ) 思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨くのに役立つこと。 (エ) 情報を活用して、公正かつ適切に判断する能力や創造的精神を養うのに役立つこと。 (オ) 科学的、論理的な見方や考え方を養い、視野を広げるのに役立つこと。 (カ)～(ケ)については、「平成元年国語Ⅰ、Ⅱ」のオ～カに同じ。
	現代文	内容	ア ウ 論理的文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえること。 様々な文章を読むことを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。
	現代文	内容の 取扱い	(4) 指導に当たっては、例えば次のような言語活動を通して行うようにする。 ア 論理的文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書くこと。 ウ 文章の理解を深め、興味・関心を広げるために、関連する文章を読んだり創作的な活動を行ったりすること。 (5) 教材は、…現代の社会生活で必要となる実用的な文章も取り上げるようにする。なお、翻訳の文章や近代以降の文語文も含めることができる。